

令和7年度
すくわくプログラム活動報告書
(実施対象：0歳児クラス)

モニカ都立大園

M  nica

テーマ

砂と土の探究

設定理由

園庭で、乾いた地面から湿っている地面に移動した時に、動きが止まり砂を握って感触を確かめる姿があったため、感触に興味を持っている子どもたちに砂や土には様々な感触・可能性があることを知ってほしいと考えた。いつでもすぐに出られる園庭があり、植物を育てるための土もある環境を活かした活動ができると考えた。

対象クラス

0歳児クラス・6名

活動のねらい

私と砂と土との関わりを深める

キーワード

「どう？」 「〇〇（特徴）だね」

活動期間

令和7年9月～令和8年1月

活動回数

計4回

活動①

砂が固まる、崩れる

準備物

砂 | カップ | スコップ | 水

環境構成

園庭、子ども1~3人、保育者1~2人

- (1)保育者と砂に触れる
- (2)カップで型抜きをする、泥団子に触れる
- (3)保育者と一緒に固まる様子を見たり、触れて崩れる様子を見たりする



活動②

砂の山やくぼみで遊ぶ

準備物

砂 | スコップ

環境構成

園庭、子ども2人、保育者1~2人。事前に砂場に山やくぼみを作っておく。

- (1)山やくぼみを見る、触れる
- (2)全身を使い山に登ろうとしたり、くぼみに入ろうとする
- (3)手や足、洋服などについた砂に気づく



活動③

模造紙・トレース台の上で土、泥に触れる

準備物

白模造紙 | トレース台 | 砂 | 水
タライ(2) | シート

環境構成

室内(ホール)、子ども2~3人、保育者2人

- (1) 模造紙の上で砂に触る
- (2) 模造紙を立てて砂を下に落とす(くっつかない)
- (3) 砂に水を入れて泥にして、模造紙の上で触る
- (4) 模造紙を立てて泥がくっついている所を見る(くっつく)



活動④

水の量によって変化する土・砂に触れる

準備物

タライ | 土 | 水 | ボトル | シート

環境構成

保育室、子ども2人、保育者2人

- (1) 土に触れる
- (2) 土の中にボトル一本分の水を入れて泥を作り、触る
- (3) ボトルの水1/2を3回に分けて水を入れたときの泥に触る



園庭で遊んだ際、砂に触れるとその手を見つめていた。乾いた地面から湿っている地面に移動した時に何かを感じたようで、動きが止まり砂を握って感触を確かめる姿があった。



・型を抜く

園庭で保育者がカップやバケツに砂を入れて、型抜きをして見せた。カップをゆっくり上げると、容器の形に固まった砂。じっと見つめる子どもたちに「触ってみる?」「固まったね」「どう?」と声をかけると、すぐに手を伸ばした。触れると少し崩れて、はっとした表情で保育者の方を見る。もう一度触れると、完全に崩れて不思議そうにする。固まっていた砂が崩れていく面白さに気付いて、嬉しそうに笑みを浮かべていた。保育者がもう一度型抜きをすると、すぐに手を出し、上から押してみたり、握ってみたりする姿が見られ、繰り返し砂の崩れていく様子を楽しんだ。



・手で固める、崩す

保育者が握って作った固まりを差し出すと、すぐに手を伸ばして触れていた。触れても崩れない固まりを手を持ち不思議そうにじっと見つめる。ぎゅっと手に力を入れて握ると崩れていく現象に、驚く姿も見られた。

砂が固まること、崩れることの面白さに気づき、「触りたい」「崩したい」と砂に手を伸ばす。触れることによって形が変わっていく様子に驚き、砂の持つ魅力を感じて興味が深まっていった子どもたち。「触ってみたい」「どうなるんだろう」と興味をかきたてて探究ができるように、保育者が目の前でやって見せたり、一緒に驚いたりしながら、関わっていくことを大切にしていきたい。



〈くつつく・落ちるを感じる〉

事前に砂場に山とくぼみを作っておき、2名ずつで活動を行った。山を見ると自ら近づいて掴むように手を伸ばす。するとすぐに山が崩れた。その感触が楽しかったようで何度も山に触れる姿が。保育者も一緒に山に触れ、手に付いた砂を見ていると、その様子を見た子どもも自分の手の平を見つめ、砂が付いていることに気付いた。保育者が手を叩いて砂を落とすと、真似をして一緒に砂を落とす姿が見られた。

くぼみに入り、自分でハイハイをしてよじ登る。保育者が「見て」「どうなってる?」と声を掛け、洋服についた砂を指差すと、「あっ」「おっ」と反応し、ついた砂を指差す姿が見られた。また、友だちのズボンに砂がついていることに気づき、指を差して保育者に知らせる姿もあった。



くつつく砂に着目できるように声を掛けながら関わったことで、手や体に砂がついていることに気づき、改めて砂がくつつく面白さを知る。また、これまでは砂が落ちていく様子に着目することがなかったため、最初は不思議そうにしていたが、何度も繰り返す中で自分の動作で砂が落ちることの面白さにも気付いたようだった。この活動を経て、手や服についた砂を自分で落とそうと手を叩くことが増え、日常的に砂に触れることを楽しんでいる。



・乾いた土

タライの中に乾いた土を入れ、模造紙を用意した。すると、土を掴んで上からさらさらと模造紙の上に落としたり、手のひらで広げたりする姿があった。保育者が「くつつくかな」と模造紙に土をつけると、保育者の動きを真似た。土がくつつかずに自由自在に動くことに楽しさを覚え、何度も手を動かしながら土を触っていた。模造紙から空のタライに土を流すと、模造紙が真っ白に。触っていた土が模造紙から無くなったことに気づき、指を差ししながら目を丸くして見ていた。「どこにいったのかな」と声をかけるときよろきよろと周りを見渡す。「あ、見て見て」とタライを指差して伝えるとのぞき込み、タライの中の土を確認していた。

・泥

目の前で土に水を入れて一緒に混ぜて泥を作った。手にくっついた泥を模造紙にこすったり、両手で広げたりしていた。「くつついたね」と声を掛けると泥が付いた手を力強く何度も模造紙につける。模造紙に色がつき指差す子もいた。模造紙を空のタライの上で持ち上げてみると泥は中々落ちない。不思議そうに見ていた子どもに「落ちてこないね。模造紙にくつついたのかな」と声をかけると、模造紙と一緒に持って振ったり空のタライを触ったりして泥を落とそうとしていた。



目の前で土に水を入れ、一緒に混ぜて泥を作ったことで土と泥は元々同じものだと意識できるようにした。だからこそ、土と泥を模造紙に押し当てて傾けたとき、土はくつつかないのに泥はくつつくことの違いに疑問を抱く姿が見られたのだと感じた。そして、空のタライを触ったり、一緒に模造紙を持ったりしていたので「同じなのに違うのはどうして?」と確かめようとしていたのではないかと思う。また、「くつついた」「くつつかない」の言葉がけにより、意識して活動に取り組み、泥をくつつけると色が付くこと、土はくつつかずに動くということに気づき、それを活かした遊びへと探めていくことへ繋がった。



タライの中に土を入れる。そこへ水を少しずつ足していった。最初は水をすぐに吸収するため、水が無くなる、色がつく、といった現象を見ながら、手を伸ばして触ったり握ったりしていた。さらに水を足すと、先ほどよりも掴んだ砂が固まりやすくなっていることに気付いた。ぎゅっと力を込める手のひら。でも力を入れ過ぎると崩れる土。その動作を繰り返し楽しんだ。またさらに水を足すと、なめらかな泥になった。タライに手を入れると冷たさを感じる。手が包まれているような感覚。この感触は好みが変わり、気に入った子どもは手を泥の中に入れる動作、そこから手を出す動作、また掴んだ泥が手のひらからゆっくりと落ちていく様子を何度も繰り返し試していた。隣で様子を見ていた子どもは、タライに近寄りそっと指を付けてみた。驚いた様子で手をすぐに引っ込め、手に付いた泥を眺めている。保育者や友だちがしばらく気持ちよさそうに泥に触れている様子を見てみると、再びそっと指を入れてみようとする。また手を引っ込める。何度もそれを繰り返していくうちに、指から、手へとゆっくり触れる範囲を広げていく様子が見られた。



普段泥遊びに積極的な子が多いが、それぞれの泥の柔らかさを感じ、感触によって子どもの関わり方や好みの違いが見られた。子どもたちには自分なりの関わり方があるため、言葉がけでなく見守ることも大切だと感じた。また、周りの影響を受けて新たな関わり方と出会う子どもたち。あらゆる角度から環境設定を考え、より良い関わりにしていきたい。

使用物

砂 | iPhone 12 pro | トレース台

テーマ：砂と土の探究

全体の振り返り

園庭で何気なく触れる砂や土。全4回のプロジェクト活動を通して、その性質を知るために適切な環境を模索した。室内では戸外での環境を再現することにより、一人ひとりがどのように向き合っているのか、また感触の違いに気付く姿などをじっくりと観察することができた。回を重ねるごとに子どもたちの視点は砂や土の性質に向けられた。普段の遊びにも変化が見られ、触れるだけでなく上から落としてみようとしたり、手の平を使って土を叩いて固めようとしてみたりと、試行錯誤する姿があった。毎日過ごす園庭。そこにある砂が、子どもたちにとってより親しみのあるものになっていくことを願う。また、引き続き土や泥に触れていくことで、自然の美しさ、気持ちよさ、変化する不思議など、子どもたちから生まれる感情や疑問を大切に思い、存分に関わっていきたいと思う。言葉はなくとも、子どもたちの感情が動いた瞬間を見逃さないよう、今の子どもたちの姿を捉えつつ、より没入できる空間を作り出すため、セットアップの仕方なども工夫を重ねていきたい。

終



株式会社モニカ

〒105-0004
東京都港区新橋1-9-5 KDX新橋駅前ビル 3F
TEL:03-6661-2466
FAX:03-6661-2467

モニカ都立大園

〒152-0034
東京都目黒区緑が丘1-2-14
TEL:03-5726-9145
FAX:03-5726-9146